

令和元年度新採用職員アンケート調査結果

令和元年度新採用職員を対象としてアンケート調査を実施しました。(回答者数:82名(行政Ⅰ28名、心理1名、社会福祉7名、電気5名、機械2名、土木9名、建築3名、化学3名、農業6名、農業土木5名、農芸化学5名、畜産1名、林業3名、水産2名、病院事務3名、警察事務1名))

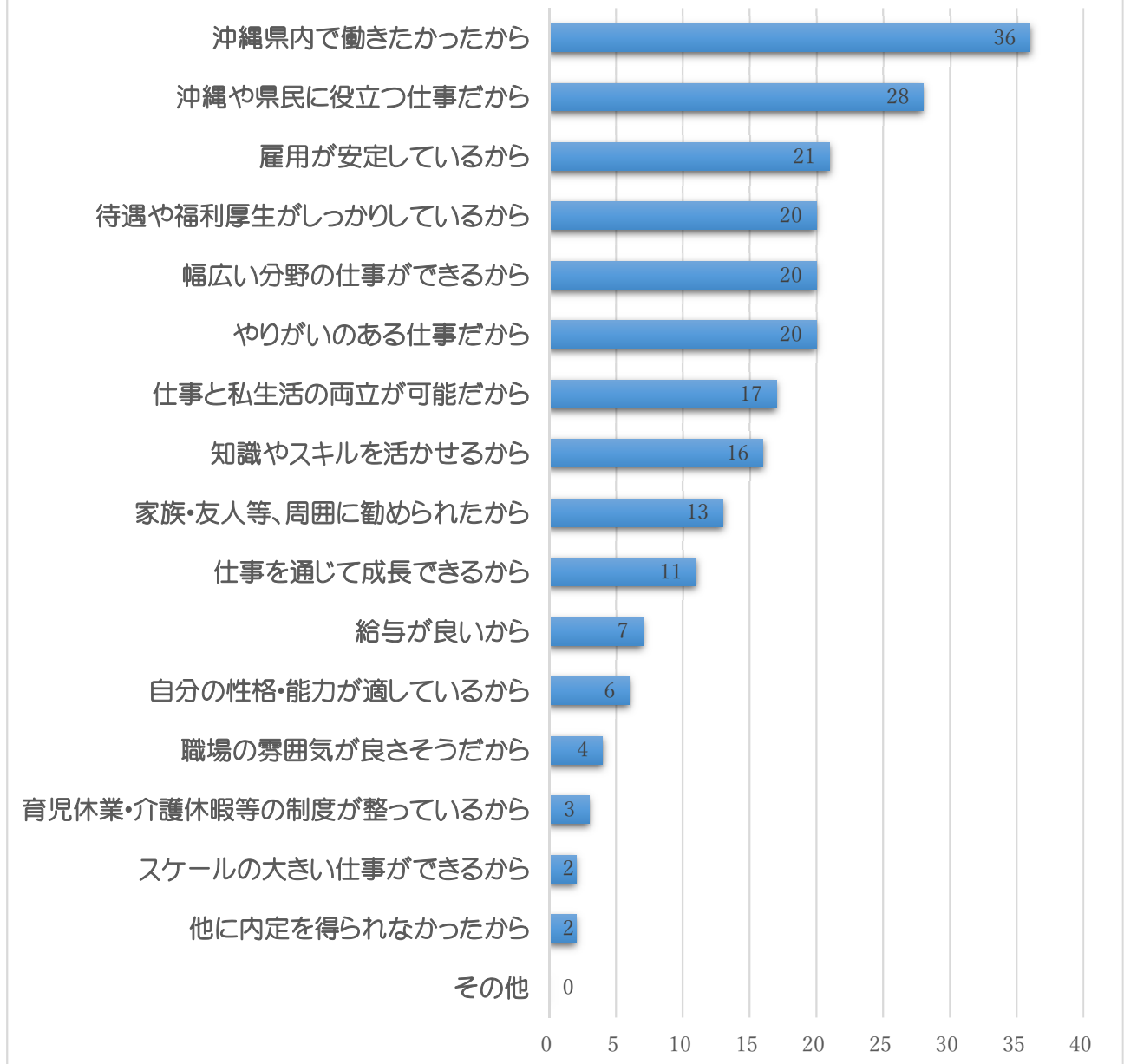
採用試験対策や入庁後の感想等、主なものを紹介しますので参考にしてください。

なお、アンケート回答中「事務系」とは行政Ⅰ、心理、社会福祉、病院事務及び警察事務を、「技術系」とは事務系以外の採用試験区分を指します。

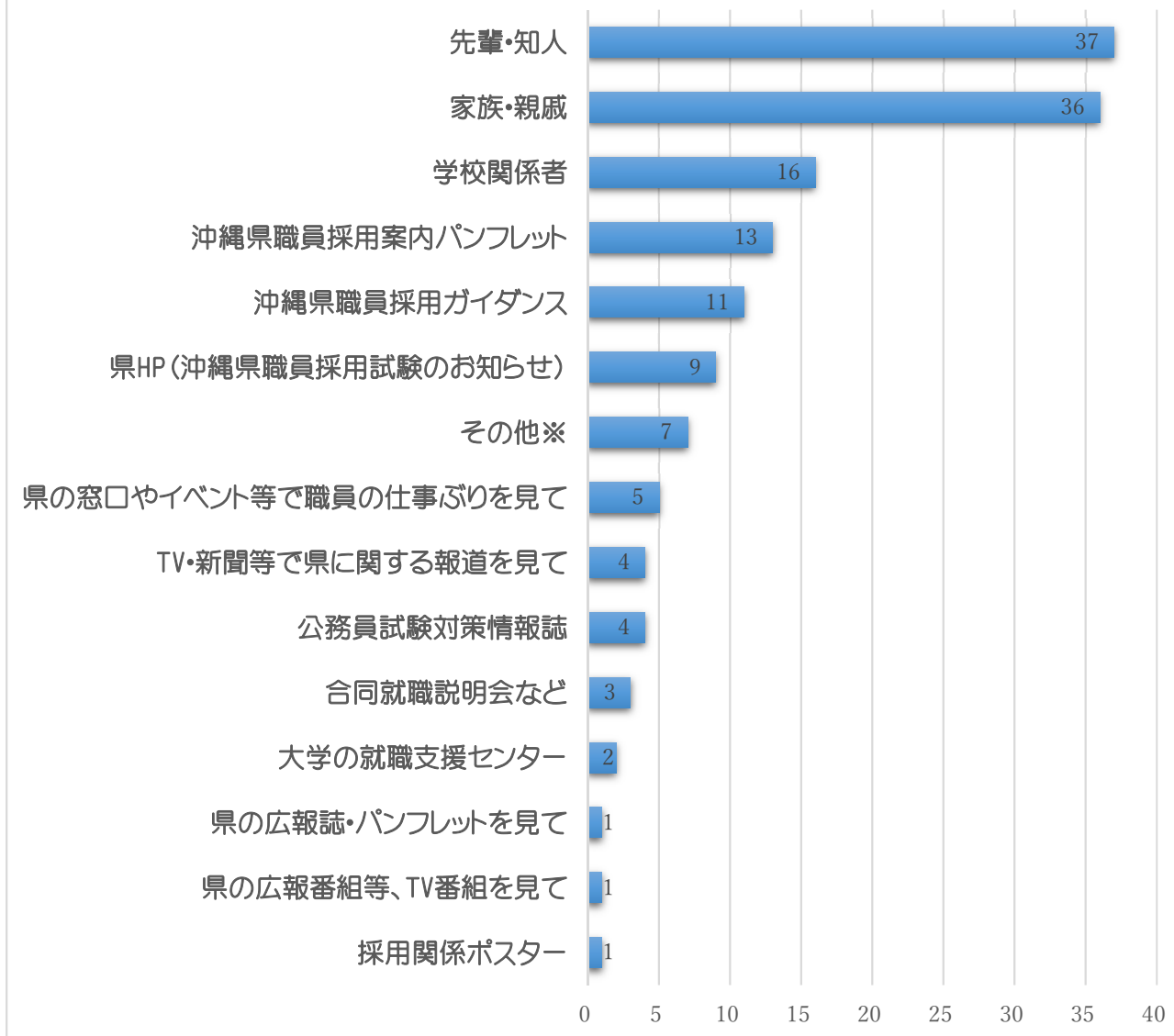
目次

(1) 就職先として沖縄県に決めた理由	2
(2) 県職員を志望することとなったきっかけ.....	3
(3) 採用試験勉強を開始した時期.....	4
(4) 1次試験前6か月間の1日あたり平均試験勉強時間.....	5
(5) 対策に苦労した試験種目	5
(6) 1次試験(教養試験及び専門試験)対策.....	6
(7) 2次試験(論文試験)対策	6
(8) 2次試験(集団討論及び個別面接)対策.....	7
(9) お勧めの試験対策又は試験前にやっておけばよかったこと	7
(10) 就職活動や採用試験に関する情報収集に利用したもの.....	9
(11) 沖縄県庁入庁後の感想.....	10
(12) 他の公務員と比較した職業としての沖縄県職員の魅力	12
(13) あなたの職種の魅力.....	13
(14) 県職員志望者に対するアドバイスやメッセージ.....	14

(1) 就職先として沖縄県に決めた理由



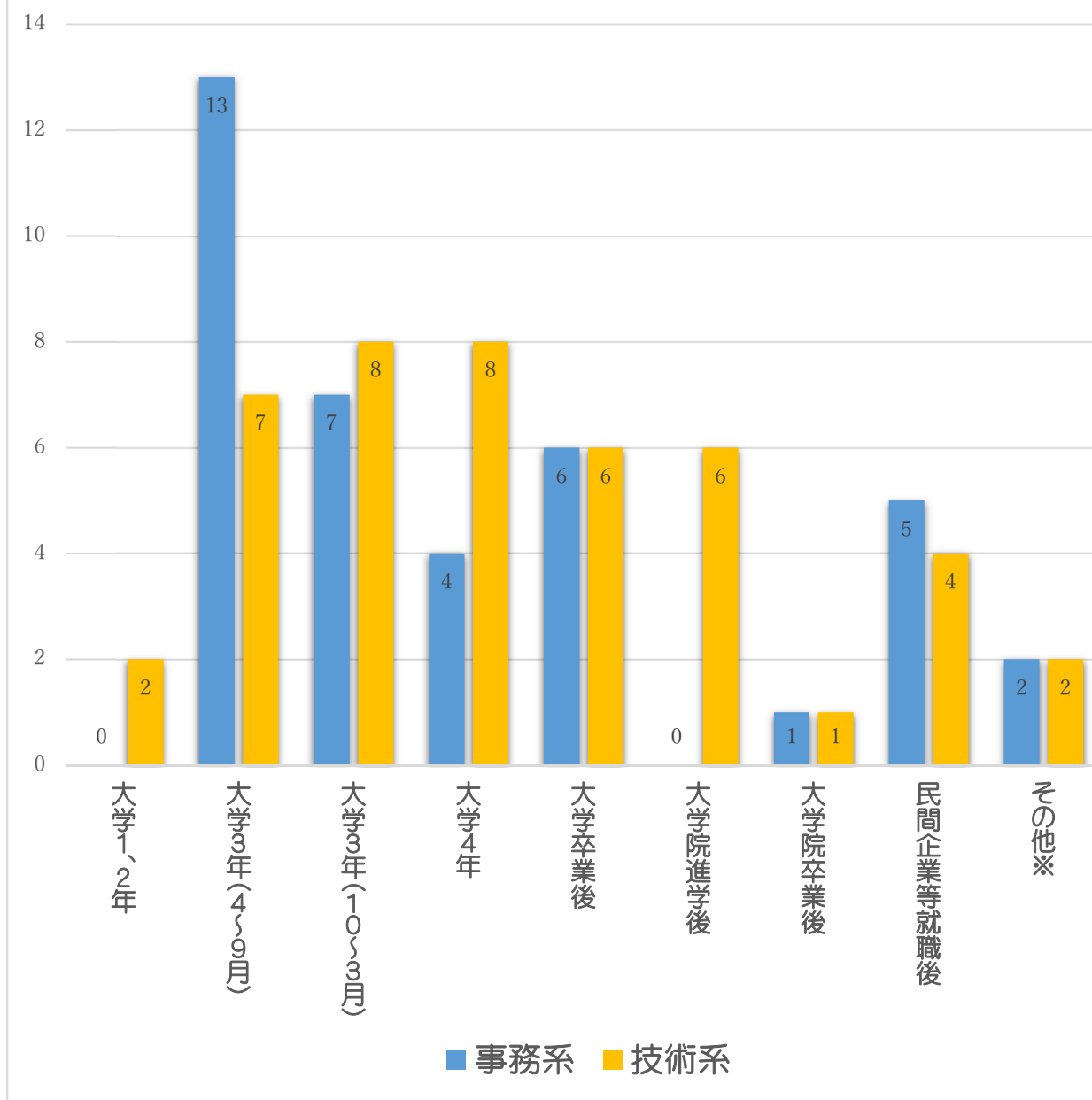
(2) 県職員を志望することとなったきっかけ



※その他回答

- 地元である沖縄県のために広く社会に貢献できる仕事を考えた時に、沖縄県庁が最適だと考えたため
- インターシップに参加して業務内容に興味を持った
- 臨時採用で実際に県の仕事に触れて、面白い仕事だと感じた
- 県内で働くとしたら県職員だと決めていた

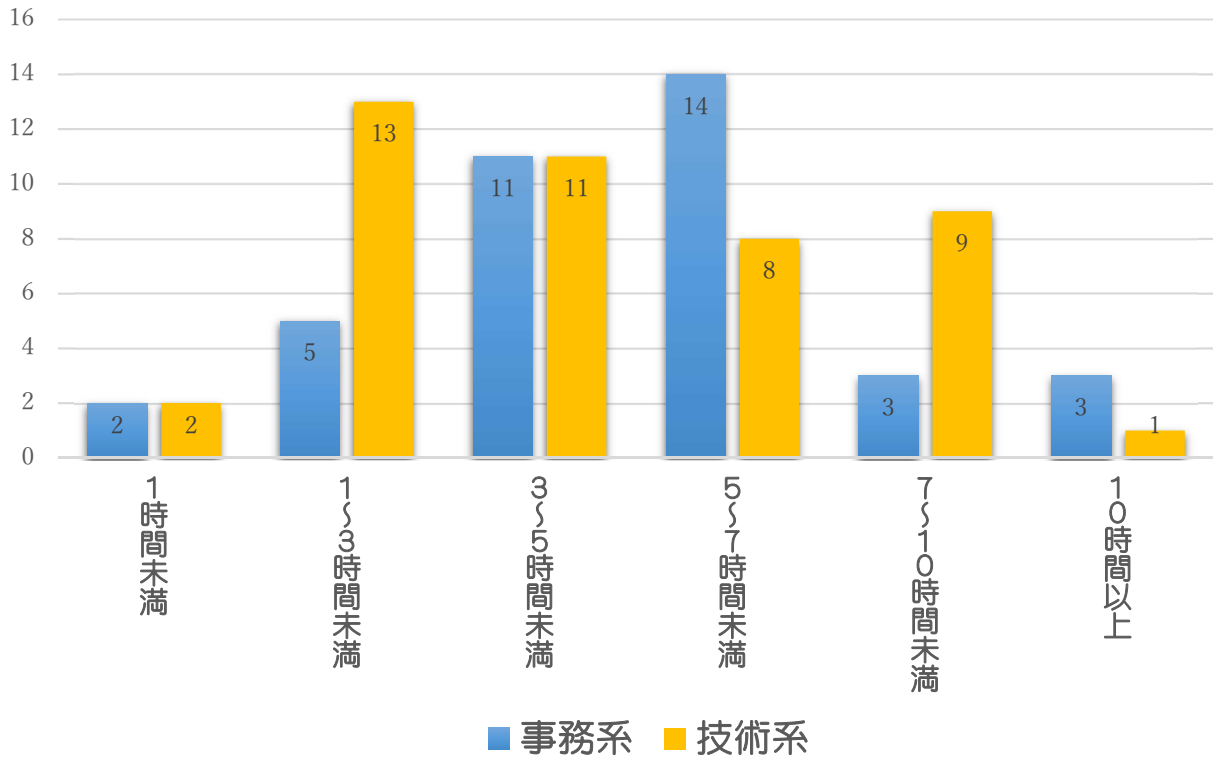
(3) 採用試験勉強を開始した時期



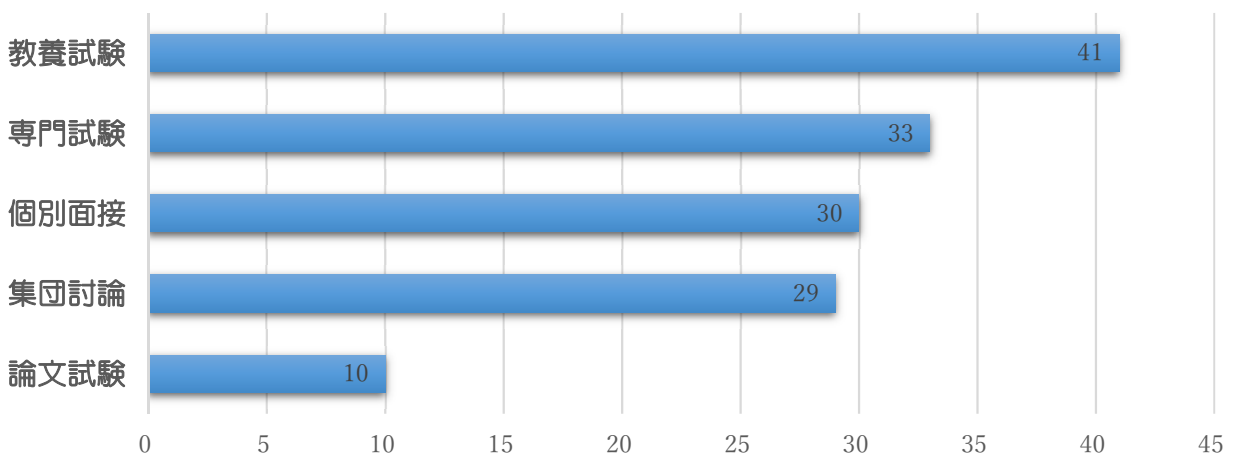
※その他回答

- 試験実施前年の12月に前職を退職し、1月から開始
- 採用試験の1か月前
- 臨任として仕事をしているとき
- 民間企業退職後

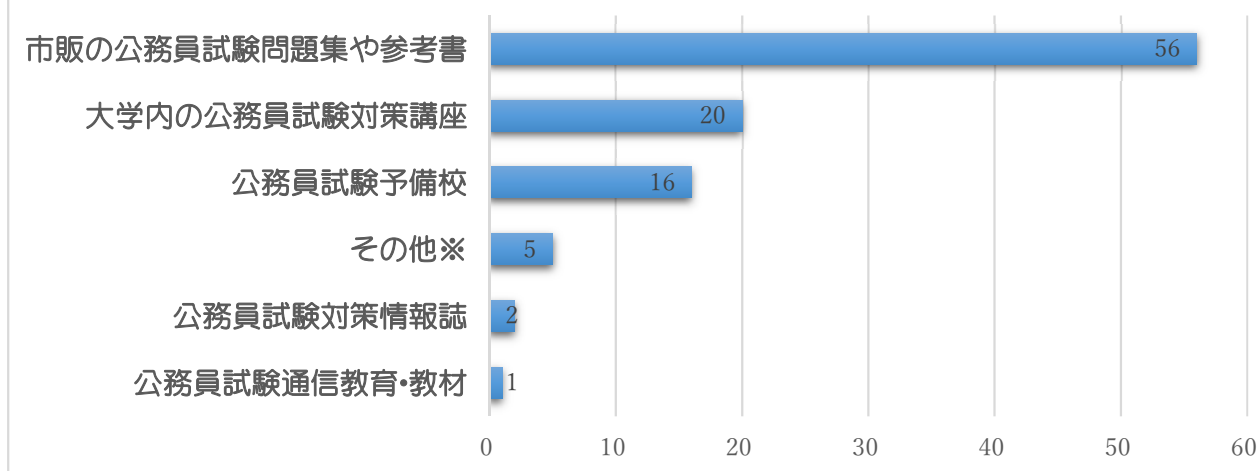
(4) 1次試験前6ヶ月間の1日あたり平均試験勉強時間



(5) 対策に苦労した試験種目



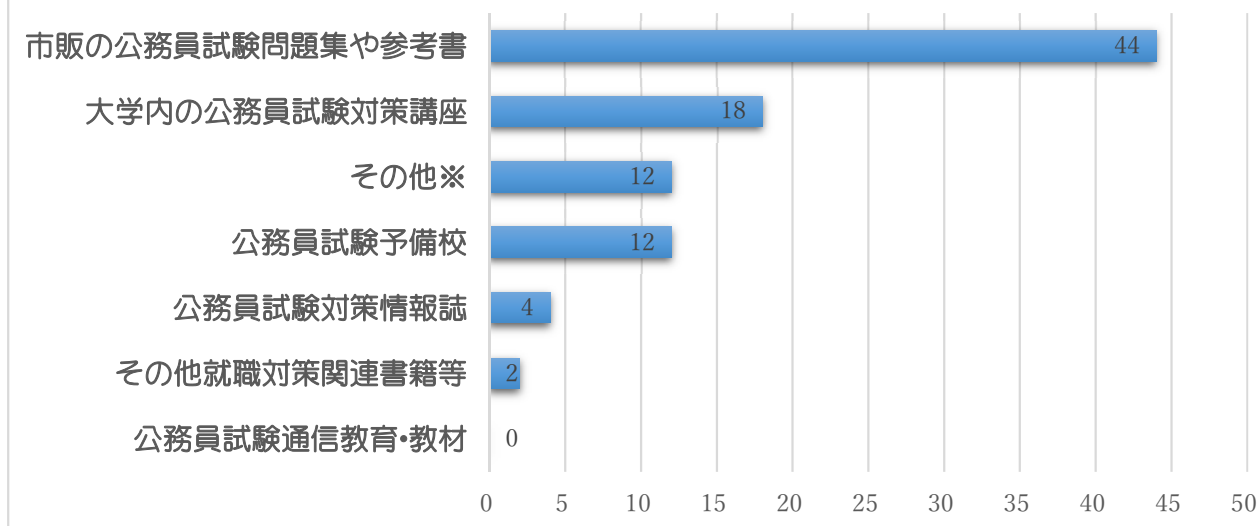
(6) 1次試験(教養試験及び専門試験)対策



※その他回答

- 国家公務員試験過去問
- インターネット

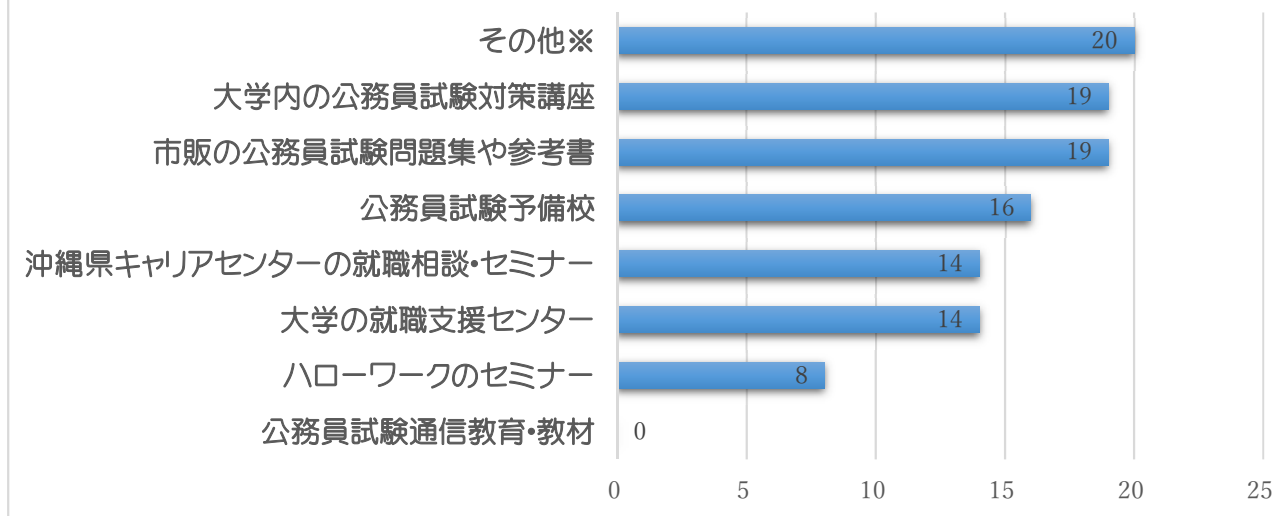
(7) 2次試験(論文試験)対策



※その他回答

- 県内の新聞等をチェックし、論文に出そうな時事をピックアップしていた
- 沖縄県キャリアセンター
- インターネット
- 大学の教授による添削やアドバイス
- 知人、両親等による添削

(8) 2次試験(集団討論及び個別面接)対策



※その他等回答

- 大学時代の先輩方(現役県職員)と面接練習や情報収集
- 友人や受験生同士で模擬討論・面接
- 教授や大学の同期と練習
- 家族と面接の練習
- 特に対策していない

(9) お勧めの試験対策又は試験前にやっておけばよかったこと

【1次試験(教養試験及び専門試験)】

- 1科目を集中的に進めることを意識し、1日に取組む試験科目は3科目程度に留め、勉強時間はメイン科目8割、ほか2割を目安にしていた。(行政I)
- 市販の国家一般職(化学)のテキストでは専門試験科目の半分ほどしか網羅できないので、残りは国家総合職(化学・生物・薬物)の過去問で対策する。(農芸化学)
- 専門試験対策は、電験三種の理論を主に勉強し、電力と機械は電験三種の問題で基礎部分を勉強するとよい。(電気)
- 専門試験対策は、社会福祉士国家試験過去問集を参考に対策を行った。(社会福祉)
- 転職組は大学での知識が薄れているので、専門試験は苦勞するところだと思う。早めに分かりやすいテキスト又は対策講座を探すことをお勧めする。(機械)
- 時事問題についてもっと取り組んでおけばよかった。(病院事務)

- 一冊の問題集を完璧にすること。(行政Ⅰ)
- 過去問は繰り返し解くこと。(行政Ⅰ、土木、病院事務)
- 試験まで時間がなければ、得意分野に集中。(農業)
- 同じ参考書でも繰り返し通読するとよい。(畜産)
- 独学で試験対策を行っていたため、YouTube、Yahoo 知恵袋を参考にした。(行政Ⅰ)
- 点数が採りやすい科目(憲法・行政法等)は満点をとれるまで問題集を解くとよい。(行政Ⅰ)
- 専門試験対策は白書を熟読。(水産)

【2次試験(論文)】

- 日頃から新聞等で時事知識をつけておくこと。(土木)
- 県広報誌(美ら島沖縄等)を読むこと。(行政Ⅰ)

【2次試験(集団討論)】

- 日頃からニュースをチェックし、ポイントなどをメモして整理しておくこと。(行政Ⅰ)
- 広報誌(美ら島沖縄)や県HPを利用して、県の施策に関する情報を収集すること。(行政Ⅰ)
- 集団討論は、知り合いと集まって情報交換をしたり、模擬練習をしておいた方がよい。(水産)
- 沖縄県キャリアセンター等を活用した集団討論対策(電気)
- 友人と集団討論の練習を繰り返す。終了後にお互いに良かった点や論点整理などの振り返りをする。(行政Ⅰ)

【2次試験(個別面接)】

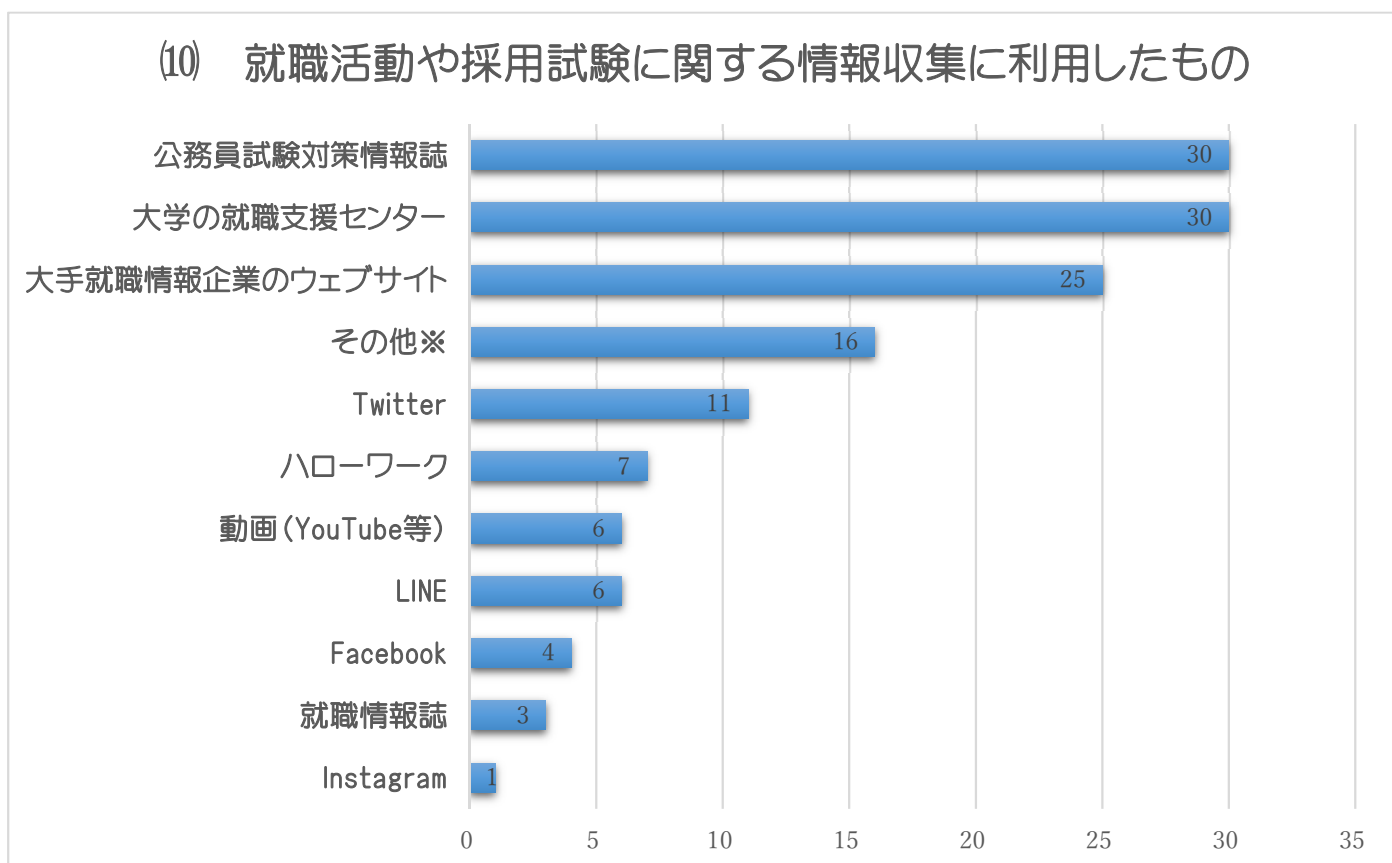
- 志望動機やこれまでの経験など、聞かれそうな質問はノートにまとめて整理し、自分の言葉で伝えられるようにすること。(行政Ⅰ)
- 面接時は回答台本を丸暗記するのではなく、ざっくりとした自分の面接の方針を固めること。(建築)
- 早い段階から空いた時間を利用して県の広報誌や新聞等を読むようにするとよい。県行政

に幅広く興味を持てるようになり、2次試験対策がかなり楽になる。(行政Ⅰ)

- 大学の公務員講座だけではなく、大学のキャリアセンター、沖縄県のキャリアセンター、ハローワークを利用して、繰り返し面接練習をすること。(行政Ⅰ、社会福祉、農業、農業土木)

【その他】

- 早めに大学内の対策講座等を利用した方がよい。一人で対策をするよりも様々な情報を得やすい。(農業)
- 試験勉強の進め方の相談先に、大学の就職支援センターを選んだ。試験の概要から、おすすめの参考書、集団討論対策等、あらゆる方面からサポートしていただいた。(電気)
- 一緒に受験する仲間と情報交換し、協力しあって対策を行うこと。(社会福祉)
- 先輩職員に業務の内容を聞くこと。(林業)



※その他回答

- 公務員試験関係のウェブサイト(ブログ等)
- 沖縄県や各団体、企業等のHP
- 友人、知人、大学の先輩等

(11) 沖縄県庁入庁後の感想

【業務について】

- 最初は業務においてわからないことや疑問を感じる事が多く不安が大きかったが、周りの上司、先輩へ気軽に質問ができる環境なので、現在は安心して業務を行っている。
- 新人をサポートしてくれるフレッシュマントレーナーに支えられたり、前任者の電話によるフォローのおかげで、少しずつ業務を覚えていくことができた。
- 多様な経験ができることは今後の人生においてプラスになるし、やりがいを感じている。
- 採用初年度からスケールの大きな事業に携わることができ、多忙であるがやりがいを感じている。
- 道路の維持管理及び県管理道路に係る許認可を行っているが、県民や市町村と直接やりとりをしながら業務を進めていくので、ていねいな説明や打合せ等が重要だと感じている。
- 県民の消費に関する統計資料の作成を担当。地道な作業ではあるが、県民の経済の動きについて知ることができる、大事な業務の一つであると感じている。
- 私は社会福祉職として採用され、現在ケースワーカーとして働いているが、困難を抱えている県民の方と直接関わりを持ち、仕事を行える点がとてもいい。
- 若夏学院で児童自立支援専門員として、児童と寝食をともにしながら様々な行事や活動を行うことで信頼関係ができ、彼らの成長も見ることができて、とてもやりがいを感じている。
- 機械職は、業務については工事現場等の技術面がメインというより、条例や法律等の行政面がメインだと感じた。慣れるまでは苦労したが行政面を理解することで、技術面をカバーできると感じ、今は業務にやりがいを感じている。
- 技術職は、対外組織、工事請負業者との調整等を通じて、成長できる環境だと思う。
- 業務の幅が広く対処すべき問題も多いが、一つずつ解決していくことで関係団体や県民から「ありがとう」の言葉を頂くこともあり、やりがいのある仕事だと感じている。
- イメージしていなかった業務も多々あるが、その全てが何かしらの形で県行政に貢献することができる仕事だと感じている。
- 多岐にわたる業務があり、日々勉強。

- 業務を効率よく遂行するためのノウハウを先輩職員から学ぶ必要があると感じている。
- 業者や地域住民と接する機会が多く、最初は電話や調整の際とても緊張していた。工事の流れ(着手から完了まで)等、覚えることが多くて大変だった。
- 業務内容によって民間企業との事務調整や県内・県外(国外)出張、議会への対応などもあり、様々な経験を積むことができる。
- 技術職なので、勤務先として出先や研究機関を想像していたが、実際は本庁勤務で戸惑いもあった。今では研究よりデスクワークに魅力を感じるほど充実した日々を送れている。
- 技術職で入職したが、想像よりも技術的な知識が必要とされ、これから学んでいかなければならないと実感している。
- 業務量が多すぎて、一つのことを掘り下げるというよりは広く浅く業務を行っており、ちょっと戸惑っている

【勤務条件・休暇制度・福利厚生について】

- 時差出勤や短時間勤務など勤務時間に融通が利き、私生活の変化に対応してもらえると
いう安心感がある。
- 年休が取得しやすく、1時間単位で申請できることや特別休暇も充実している点が便利だと感じる。年休も特別休暇も、自分のタイミングでとりやすい。
- 家庭と仕事の両立がしやすい様に手厚くサポートされているので、特に女性は出産、育児がしやすい環境にあると思う。
- ノー残業デー等時間外勤務縮減への取組がある。男性の方が育休を取得するなど、当たり前
前に育休等がとれる環境があり、周りがサポートしてくれているのでとてもよい。
- 上司が積極的に休暇制度を活用しているため、新採用である私も休暇制度を活用しやすい環境にある。
- 福利厚生においても、各種手当が豊富なことに加え、個人的には指定の運動施設を安く
利用できるところが嬉しい。
- サークル活動や、スポーツ大会が充実しておりとても楽しい。

【職場環境・人間関係について】

- フレッシュマントレーナーはもとより、他の先輩たちも分からないときはいつでも教えてくれ、とてもありがたく、仕事がしやすい。
- 上司や先輩は優しく、質問しやすい雰囲気。仕事に関する悩みも親身になって聞いてくれて助かっている。
- 課長が率先して職場の雰囲気を良くしようと働きかけてくれ、さらに周りの職員が積極的にコミュニケーションをとってくれる為、職場環境、人間関係ともに良好。
- たまに落ち込む日もあるが、職場の周りの方々が声をかけてくれたり、相談に乗ってくれたりするので、また頑張ろうという気持ちになれる。

(12) 他の公務員と比較した職業としての沖縄県職員の魅力

【事務系】

- 業務を通して、様々な地域や文化に触れることができ、仕事をしていくなかで、より沖縄が好きになるというところも、沖縄県職員の魅力である。
- 一番の魅力は沖縄県のことについていろんなことを知れること。沖縄で今起きている問題や、これに対する施策などに関われるのがとても魅力的だと思う。
- 様々な角度から事業を通して県民の暮らしの基盤整備や県の発展に携わることができる。職員数が多く、また様々な職種の職員がいるので、いろいろな話が聞けて視野も広がる。
- 沖縄県が抱える様々な問題に対してそれを解決するための手段・方法を考えることができるのが県職員の魅力だと感じている。
- 地元好きで公務員を志望する人は、他の公務員より、県で働くほうがやりがいを感じると思う。
- 沖縄県職員は、様々な分野の業務に関わることができ、どの業務においても県民のために働くことができるという点が魅力。
- 市町村等の特定地域や国などの大きなエリアとしてではなく、直接「沖縄県」に携わっていると実感できる点が魅力的。
- 周辺離島の行政に関われることが最も魅力に感じている。

- 3年ごとの異動は、様々な経験や知識を得ることで視野の広さや適応力の高さを育むものだと思うので、沖縄県職員の魅力の1つだと考える。

【技術系】

- 自分が普段利用している道路の整備などに携わることができるのは、やりがいだと思う。
- 定期的に異動があり、仕事に対してマンネリ化せずに取り組める点が魅力。
- 転勤しても県内の離島なので、「沖縄県で働きたい、けど安定した職種がよい」という人にはぴったりの職種。
- 全国転勤がないところが魅力。

(13) あなたの職種の魅力

【行政Ⅰ】

- 県内で働きたい、沖縄のために働きたいと漠然と考えていて、いろんな分野の仕事に携わってみたいと考えている方には、是非行政職がおすすめ。

【心理】

- 家庭の中で傷ついたり困っていたりする子どもたちを様々な面から直接サポートすることができ、子どもたちが安全で安心して暮らせるように支援できることが魅力。

【社会福祉】

- 困難を抱えている県民の方と直に関わり、関係機関と連携し、問題の解決に向けて一緒に取り組むことのできるやりがいのある仕事だと思う。
- 人の未来を大きく左右する仕事。うまくサポートできたときはとてもやりがいを感じる。
- 様々な現場を経験でき、専門職として成長しスキルアップできる体制が整えられている。また、給与・待遇も良く、自身の生活の基盤も安定的に持ち、仕事に専念できる。
- 責任が重く多忙な業務であるが、民間では経験できないようなことが多く凄くやりがいのある仕事である。

【機械】

- 県立施設の設備、下水道設備など、沖縄の重要なインフラを支える機械設備に関わることができ、やりがいがある。沖縄が好き、機械も好きという方へは、本職をお勧め。

【土木】

- 社会基盤を対象に業務を行っているので、分野が細かく範囲も広い。学ぶことも多いのでやりがいがある。道路や公園等の工事が終わったときは感慨深い。
- 設計から現場まで幅広く関わることができる。その分、必要とされる知識は多いため、学ぶことが大切だと実感している。

【農業】

- 本庁の行政的な仕事や、試験場での研究、普及の現場に近い業務など、多くのことに触れられるのが魅力的。
- 県の農業職は、ミバエやゾウムシの防除事業に代表されるように、農家個人や一地域では解決できない問題を、様々な事業を行うことで解決することができる。

【農業土木】

- 主に農家さんの所得向上を目指し日々頑張っている。農業の根本的な部分を担う仕事(基盤整備)が多いため、今後の沖縄県の農業を左右するという強い責任を持って仕事ができる。
- 漁港の整備及び管理を行っている。漁港にしても農地整備にしても、地元の方の要望を聞いたり、業者とやり取りしたりすることが多いため、コミュニケーション能力が磨かれる。
- 農業土木職は宮古や八重山、北部等の遠隔地勤務もあり、様々な現場、事業に携われるので、いろいろな職場で働きたい、現場に出たいという方にはとてもおすすめ。業務の成果が形として残るので、達成感がある。

【病院事務】

- 沖縄県の基幹病院である県立病院で、運営側から縁の下で支えることで沖縄県の医療に貢献していると実感でき、他の職種にはない魅力。

【警察事務】

- 会計業務、鑑識業務、照会センター、被害者支援等幅広い業務があるので、いろいろな経験ができる。

(14) 県職員志望者に対するアドバイスやメッセージ

【事務系】

- 沖縄県職員は、今後の沖縄をどのようにしていくか、そのための課題は何か、その課題を解決するためにどのような事業が必要かなど、まるで謎解きのような面白さがある仕事で

す。笑顔が溢れる「魅力的な沖縄県」を、ぜひ一緒に描いていきましょう。

- 県庁職員は、様々な観点から沖縄県の将来にアプローチできる、大変素晴らしい職業だと思います。ぜひ選択肢の中から外さず、頑張ってください。
- 社会福祉の専門職として成長し、キャリアを積んでいきたい方には、県職員はうってつけの仕事だと思います。福祉分野への県民の関心はますます大きくなっています。沖縄の福祉をリードしたいと思う方、ぜひ私たちと一緒に働きませんか？
- 試験も仕事も、一人で悩まずいろんな人に相談して、計画を立てながら進めていけば大丈夫だと思います
- ワードやエクセルといったパソコンソフトの機能がある程度知っておくと、苦労なく済みませす。私も頼れる先輩となれるように精進したいと思いますので、同じ職場で働く機会があればよろしくお願いします。

【技術系】

- 沖縄県にどのような形で貢献していきたいかということを考えると、自分が県職員としてどのような仕事をしていきたいのか、面接でも芯をもって話すことができるし、試験勉強に対してもモチベーションを保って最後まで頑張れると思います。
- 技術職において求められているのは、知識よりも説明能力や関係機関との調整能力です。学生時代に勉強だけでなく様々な活動に挑戦するのがお薦めです。
- 入庁してからは、自分はどうしたいかを考え行動することを常に求められるので、主体性を持つことが大切になります。
- 公務員試験対策は、周りの人と協力してやると精神的に楽でした。
- 思い描いている仕事とかなりかけ離れた業務をすることも多いです。
- 試験範囲が広く対策に時間がかかり、採用までの道のりは険しくなると思います。しかし、沖縄県のために働きたいという熱い気持ちがあれば乗り越えられると思いますので、頑張ってください！

以上